

植生改善6年の取り組み（萩野地区）

肥料や飼料等の価格高騰が続く中、草地資源を最大に活かした良質な原料草づくりを目指して、萩野地区で植生改善に6年間取り組みました。

1、植生の実態把握

萩野地区で植生調査を延べ120筆行つたところ、採草地の約4割がシバムギやリードカナリীগラスなどの地下茎イネ科雑草でした。農業者は「チモシーだと思っていたが、実際はシバムギだった」と植生改善の必要性を実感しました（図1）。

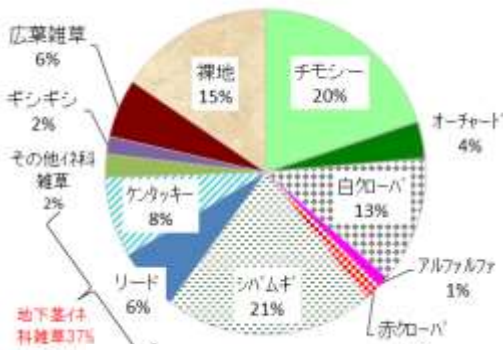


図1 植生の割合 (120筆)

- 2、植生改善の取り組み
- (1) カリ・リン酸の減肥
- (2) 草地更新の推進

3、取り組みの結果

(1) カリ・リン酸の減肥
植生が悪化した草地の更新前に、土壌分析を実施して、過剰だったカリ・リン酸の減肥など施肥を見直しました。
二戸のうち8戸が肥料費の削減につながり、3戸が不足を補つたため肥料費が増加しました(図2)。農業者から「減肥しても収量に大差なかった」との声が聞かれました。

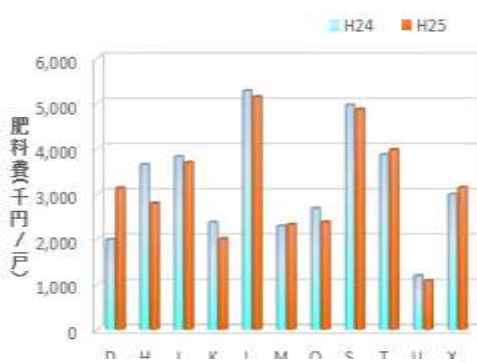


図2 肥料費の変化 (11戸)

(2) 草地更新の推進
草地更新の必要性が理解され、6年間で延べ569ha 地域全体の27.1%に及ぶ面積となりました(図3)。

① 簡易更新機(反転ロータリハロー)による更新技術の導入

これは、反転ロータリハローの実演会を契機にJAが機械を導入したことや、町・JAが草地更新に対する助成を行ったことより更新の拡大につながりました。

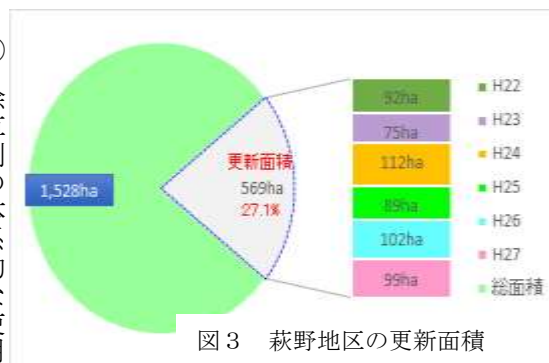


図3 萩野地区の更新面積

② 除草剤の体系的な使用
より植生を良くするため、更新時の除草剤使用も定着しました

農業者からは、「除草剤を使わず雑草が増えて苦労したので、使用すると良かった」との声がありました。
(3) 石灰資材の投入
植生悪化を防ぐため、石灰資材を投入した12戸のうち、5戸が1番

草の乾物収量が増加しました(図4)。情報交換の中で、「サイレージの品質が良くなった」「嗜好性が良い」という声が聞かれました。

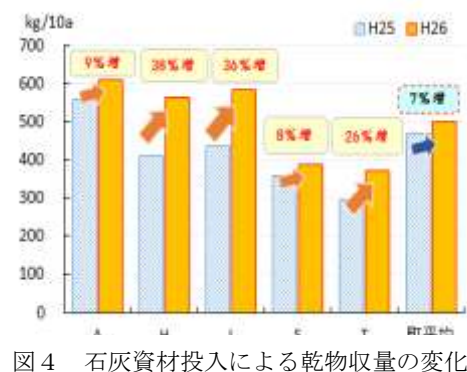


図4 石灰資材投入による乾物収量の変化



更新方法で盛り上がる萩野の後継者たち

植生改善が乳量の向上につながることを理解した後継者たちが積極的に施肥改善や植生改善に取り組んでいます。